「うつくしまふくしま子ども未来応援プロジェクト」の取り組み

子どもへの支援通じてコミュニティー再生を

県北地区のある大きな仮設住宅団地の集会所から、子どもたちの元気な声が聞こえてきた。

「わたし、縄跳びではやぶさできるよ！」

「お兄さんイケメンだね！サッカー得意？」

子どもたちが話し掛けている相手は、ボランティアの大学生たち。週末にやってくる〝大きな遊び相手〟は引っ張りだこだ。外遊びだけでなく、三十畳ほどのカーペット敷きの広間では、ボードゲーム、粘土遊び、卓球などさまざまな遊びが繰り広げられる。ちょっと年上の子どもたちは和室で宿題に取り掛かる。わからないところを大学生たちが教えることもある。

◀大学生と一緒に色粘土で〝お菓子〟づくり

次々と遊びを替える子、黙々と手を動かす子、他のグループの遊びにちょっかいを出す子、大学生に毎日の様子を話す子、子どもたちはみな、態度や表現はさまざまだが、この限られた時間を精一杯味わおうとしているように見える。

仮設住宅の子どもたちに「あそび」と「学び」の場を提供するこの取り組みは、子ども・若者の支援活動をしている県内のNPOと、地元の大学、学生ボランティアが連携して九月から始まった。活動の名称は「うつくしまふくしま子ども未来応援プロジェクト」。

プロジェクトを統括するNPO法人ビーンズふくしまの事務局長・中鉢博之さん(37)は「子どもたちが地域の中で集い、子ども同士が楽しく遊んだり、関わりの場を持てるようにすることからスタートしました。子どもたち自身がやりたいことをクラブ活動や文化活動のような形で実現したり、親や地域の住民の方々も参加してのイベントの開催なども考えています。子ども会や育成会などの再生支援や、子どもを軸にした地域のコミュニティづくり支援に発展させていきたいです」と展望を語る。

すでに、ある仮設団地では、この場がお母さん同士の交流の場にもなりはじめているという。また、このプロジェクトは、大学だけでなく、さまざまな地域の力を借りながら、県内の他の地域にも広げていく予定だ。

▶「お兄ちゃん、僕のボール奪えるかな？」

子供は「我慢している」

ボランティアとして参加した福島大学の学生の一人は「やんちゃな子もいて、最初はどう接していいかわからなかったけど、普段それだけ我慢しているのだと気が付いた。のびのびと子どもらしく遊べる場を用意してあげることが必要なんだと実感した」と三時間の活動を振り返った。

子どもは昔から「地域の宝物」と言われてきた。仮設住宅での生活は地域のつながりが薄れがちだ。だからこそこの『宝物』に目を向け、みんなで大事にすることが、地域のつながりと未来への希望を取り戻す近道となるのではないだろうか。

福島版「仮設de仮設カフェ」各地で開催

「交流、情報交換の場」提供

仮設住宅に「交流、情報交換の場」を提供しようと「仮設de仮設カフェ」が県内各地の仮設住宅で開かれている。九月二十五日(日)、十月十五日(土)には郡山市富田町の旧農業試験場にある仮設住宅集会所前で開催された。ここでは主に富岡町の住民が避難生活を送っている。県中地域絆づくり支援センターの主催。

二〇〇五年の中越地震の際、新潟大学の岩佐明彦准教授と同大学の学生らが各仮設住宅を訪問調査し記録する活動を行い「仮設のトリセツ」とし

▲9月25日に開かれた仮設de仮設カフェ

二本松でも人気 なみえ焼きそば！

菅野　典男さん(53)　浪江町請戸
現住所　福島市笹木野の借上げ住宅

二本松のちょうちん祭りに「なみえ焼きそば」の露店を出店。1日で3回も並んだ人もいるとか…そのコツはとの問いに「お客さんを楽しませること」。

人と人との出会いを大切に…

大井　守さん(76)
南相馬市小高区
現住所
南相馬市鹿島区の仮設住宅

「人と人との出会いを大切に 心と心のふれあいに感動を…の言葉を今、深く感じています。集会場にきてくれた遠くの人たちと一緒に歌った『ふるさと』はとても素晴らしい思い出となりました。」

仲良くすごせる憩いの場所

川崎　要さん(67)
南相馬市原町区
現住所
南相馬市鹿島区の仮設住宅

集会場の運営やコミュニティーの促進を仮設の皆さんと一緒に頑張っている。「誰でも気軽に利用でき、地域に関係なく仲良くすごせる憩いの場所です。」

復興を願い色紙に絵を書いています

根本　清己さん(55)　浪江町大字大堀
現住所　二本松市の雇用促進住宅

「二本松に避難して半年以上たち、仕事のめども立たない状況ですが、復興を願いながら、知人などに色紙を書いています。」

故郷に戻り家業を再開したい

志賀　康弘さん(71)
浪江町幾世橋
現住所
二本松市長命の借上げ住宅

「借上げ住宅に妻と一緒に避難しています。周りに知人も友人も居ない中、7ヶ月ぶりに同郷の友人に会うことができ、なつかしく話し込みました。早く浪江に帰って家業を再開したいです。」